



# 朝日子だより

吉田高校 進路指導部

H21.11.4 発行

学生編

Vol.5

吉高生のみなさんへ

後輩のみなさんにあてて、大学の様子や、どういった研究をしているのか書きました。是非最後まで読んで、進路を考える上での参考にしていただければと思います。

勝俣 賢（平成 16 年度 理数科卒業）

東京外国語大学 大学院 総合国際学研究所 博士前期課程  
言語応用専攻 日本語教育学専修コース 在学中



現在学んでいる内容は・・・

## 私

が今大学院で学んでいるのは日本語を外国語として学ぶ学生にどのように日本語を教えるか、ということと、日本語を教える際に重要である日本語文法についてですが、ここでは大学時代に学んだことについて書こうと思います。また、大学内でも学科（つまり専攻として選んだ言語）や年度によってカリキュラム等が異なっているため、あくまで「2005年入学の中国語科」の話として、参考にしていただければと思います。

1年次では、中国語の基礎と副専攻としての英語（必修）のほか、「地域科目」という科目（必修）や、「総合科目」という、言語と直接は関係のない科目のうち自分が興味を持つもの（「心理学基礎」など）を履修し、学びました。

まず中国語の授業について書こうと思います。中国語の授業は、作文・読解・会話の3科目が週2コマずつで、週6コマの授業でした。作文・読解・会話といっても、学生たちは多くが中国語未習者であり、最初は発音の練習の繰り返しでした。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、中国語の「普通話」（日本語で言うところの「標準語・共通語」の類）には4つの「声調」というものがあり、これを誤ると意味の異なる言葉や、分かりにくい言葉として相手に伝わってしまうため、発音は徹底的に指導されました。そのため、最初はなかなか大変でした。



それらの発音がある程度できてきたところで、作文・読解・会話の「それらしい」授業がようやくスタートします。中国語の漢字を読むためのアルファベットである「ピンイン」を覚えて、辞書の引き方を覚えてからは、読解の教科書の本文の大意を何とかつかみ、作文の授業の毎回の小テスト（どこかで聞いた言葉ですが・・・）の対策をし、会話の教科書を声に出して何度か読み、そして授業に出る、というのを毎週くりかえしていたように思います。

## 次

に副専攻語についてですが、副専攻語というのは、専攻語以外に自分で選択でき、2年間学ぶことができます。多くの学生が英語を選択しますが、私の知る限りでは英語以外にもフランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語などがあります。（東外大に進学を希望する方へ：2007年～2008年あたりから、TOEIC対策のクラスなどもできたようですし、なかなか英語以外の外国語を学習する機会もないので、個人的には英語以外の言語を副専攻語に選ぶことをお勧めします。）

# 続

いて「地域科目」について説明します。「地域科目」とは、専攻語が主に話されている地域の歴史・文化・経済等について学ぶ授業です。私は高校時代社会科全般が本当に苦手だったため、この授業のおかげで復習も兼ねて助かりました。1年次に教わった先生は中国経済に詳しい先生で、日本の食糧自給率や、廃棄物処理等の問題について中国と絡めて説明してくれました。ちなみに、各学期末の評価ですが、専攻語・副専攻語は毎回の授業の出席（小テスト）と学期末の試験、それ以外の科目は多くがレポートによってなされていました。



## 2

年次では、中国語・副専攻語の授業の続き、地域科目の続き、そのほか選択した授業を履修しました。中国語の授業では、会話・作文は1年次の基礎の続きでしたが、読解の授業がかなり発展した内容になり、魯迅の著した作品を原作のまま中国語で読んだりしました。

副専攻語でも、リスニングのトレーニングをするクラスや、ディスカッションをするクラスなど様々な内容がありましたが、私は希望の授業を取りそびれてしまい（先着順のため）専門書的なよく分からない英語の本を1年間読んでいた記憶があります。地域科目では、中国の歴史を専門とする先生から中国の歴史や文化についての講義を受け、その内容に関連する文献を読み、レポートを書いたり発表したりする、といったことに取り組みました。1年次と比べてやや自主性を持って自ら取り組む形式に変わったように思います。

## 3

年次には、自分がどんな事に関して研究し、卒業論文を書くか考え、「ゼミ」を選択して研究に取り組み始めました。中国語の科目には「表現演習」というものが加わり、ネイティブの先生と会話の実践訓練をしたり、漢文に近いような古い中国語で書かれた文章を読んだりしました。



東外大はゼミの選択できる分野が広く、中国語専攻だからといって必ずしも中国語に関する卒業論文を書かなければならないというものではありません。私は2年次の夏休みに、中国は朝鮮族自治区で日本語を教えるボランティアに参加し、日本語教育という分野に興味を持つようになったと同時に、日本語を教える際に自らの日本語文法に関する知識の不足を痛感し、勉強したいと思ったため、日本語文法のゼミを選びました。ゼミでは、教授とゼミ生全員で、「複合動詞」という、動詞と動詞が合わさってできた1語の動詞（例：「叩く」+「壊す」「叩き壊す」など）に関する論文を読み、複合動詞をその論文に倣っていくつかの種類に分類することに取り組みました。取り組んでみた結果、一部に矛盾や分類の難しい語が存在したため、その論文の分類方法に変わる、よりよい分類方法を考え、それを「ゼミ共同論文」として作成する、ということをしました。

## 4

年次では、最低限必要な単位（4年次でないと取れない単位）以外はほぼ単位をとり終えていたので、3年次のころから決めていた大学院進学に向けて試験勉強をしたり、卒業論文のデータ収集をしたりして、大学院入試が終わったら卒業論文の作成に本格的に取り組みました。

以上が大学4年間で学んだ（取り組んだ）大まかな内容です。

### 大学の様子

# 外

国語大学という、「我が道を行く大学」なだけあって、学生はみな自らの意思を持っていて、周りに流されない、尊敬できる人が多いように思います。また、国籍・年齢関係なく、みんな平等に仲良くやっている、という印象があります。多くの大学に行った友人が「大学では親友ができない」と言いますが、本学では高校の頃と同等以上の「親友」と呼べる人間を作れるのではないのでしょうか。



## 大学入学前と入学後の印象の違い



「大学」「自由な遊び場」という偏見を少し持ったまま入学しましたが、とんでもない、ガッツリ自らを鍛えられる、ちょっとした「道場」でした。とても楽しいことや新鮮なことも多い反面、「外大生」として頑張らなければならないことも多いです。

## 高校と大学の違いは・・・

**高**校の頃は、両親や先生方が苦心して創り上げた「ルール」に乗って、全力で走り続けていたように思います。何時に起きて、何時に食事して、何時から何時まで授業で、何時まで自習して、何時まで部活で・・・と決まったメニューを毎日こなしていました。その分毎日が本当に忙しくて苦しくて、周りを見る余裕がなかったのだらうとも思います。今の皆さんもそうなのではないでしょうか。

しかし、大学に入ると、自由な時間を持つか、毎日を忙しくするか、その日その日の「ルール」を自分の手で敷くことができます。食事を作るかコンビニで済ますか、サークルに行くか行かないか、授業に出るか出ないか・・・自分で決めることができる分、周りを見る機会もできると思います。しかしその分、失敗をしたときは自分でその結果を背負うことになるでしょう。大学は楽しいところですが、容赦はしてくれません。

## 大学卒業後の進路

**わ**が道に行く大学だけあって、本当に進路も様々です。商社やメーカー等の企業に勤める人や、新聞記者になる人、沖縄県庁・外務専門職などの公務員になる人、漫画家志望者・・・挙げていけばキリがありません！同じ大学を出ている私の姉は、参議院に勤めています。本学で養ったガッツで夢をかなえる人が多いようです。



## 吉高生へメッセージ

**正**直、今苦しい思いをしている人はとても多いと思います。成績が出ない、試合で勝てない、勉強・練習する気が起きない、友人とうまくいかない・・・私もそんなことばかりでした。

私も高校1年の頃、精神的にいっぱいになり、学校を休みがちになっていた時期がありました。成績も出ず、所属していた陸上部でもタイムが出せず、とても辛かったです。

私が言いたいのは、その悔しい気持ち、しんどい気持ちを忘れないでほしい、ということです。その気持ちが大きければ大きいほど、それを何らかの形で超えたときには一つの「武器」になると思います。

「あのときの大変さに比べれば、相手にならん。」そんな武器を、ぜひ手に入れて欲しいと思います。

